

第1回伊賀市総合計画審議会 議事録

開催日時	2022（令和4）年6月28日（火）10：00～12：00
開催場所	伊賀市役所4階 庁議室
出席委員	<p>岩崎 恭彦（【1号委員】三重大学人文学部） オチャンテ 村井 ロサ メルセデス （【1号委員】桃山学院教育大学人間教育学部） 片桐 新之介（【1号委員】合同会社C.SSSコーポレーション） 朴 恵淑（【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 西口 真由（【2号委員】公募委員） 奥西 利江（【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会） 澤野 政子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 船見 くみ子（【3号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会） 増田 政俊（【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納 圭子（【4号委員】 — ）</p>
欠席委員	<p>町野 真由美（【2号委員】公募委員） 大北 薫（【3号委員】伊賀市消防団）</p>
議事日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 伊賀市総合計画審議会について 4 会長及び副会長の選任について 5 総合計画に関する事項について（諮問） 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> （1）伊賀市総合計画について （2）評価の実施手法について （3）外部評価の実施について 7 その他 <ol style="list-style-type: none"> （1）【第2回伊賀市総合計画審議会】について （2）委員連絡先（mail）について
議事概要	<p>1 開会 （事務局）ただいまから、第1回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。</p> <p>★会議及び議事録公開の確認 （事務局） 本日の会議は運営規程により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いする。 また、会議録についても公開させていただきます。</p>

2 委嘱状の交付

- ・ 委嘱状の机上配布。
- ・ 事務局から委員のご紹介。
- ・ 事務局に4月以降変更があったため、紹介。

★資料の確認

配付資料の確認。

- ・ 事項書
- ・ 伊賀市総合計画審議会委員名簿
- ・ 資料1 審議会条例・伊賀市総合計画審議会運営規程
- ・ 資料2 評価の実施手法について
- ・ 資料3 外部評価シート
- ・ 資料4 R3年度まちづくりアンケート調査結果報告書
- ・ 資料5 第2回審議会に向けての事前質問
- ・ 参考資料 施策評価シート（案）、外部評価結果報告書
- ・ 総合計画概論 資料

3 伊賀市総合計画審議会について

（事務局）—【資料1 審議会条例・運営規程の説明】—

4 会長及び副会長の選任について

会長 岩崎恭彦 様

副会長 加納圭子 様

（岩崎会長）— あいさつ —

（加納副会長）— あいさつ —

★会議成立の確認

（事務局）

「伊賀市総合計画審議会条例」第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席あるため、会議成立の確認。「当審議会条例」第6条第1項により、会長が議長となるため、以下の進行について、会長にお願いする。

5 諮問

市長から会長へ諮問

市長— あいさつ —

6 議事(1) 伊賀市総合計画について

(会長) — 概論説明 —

(事務局) — 総合計画現状説明 —

(2) 評価の実施手法について

(事務局) — 説明 —

<委員>：資料4「R3年度まちづくりアンケート調査結果報告書」について、通常の色々な研究から見ると2週間で、5,000人抽出した中から939人という約5分の1の方がアンケートに答えてくれたということは、伊賀市民の関心が、積極的に参加したいという思いが表れていると思う。

ここで一緒に情報共有したいことは、例えば「分野1健康・福祉」を見てみると、4段階で質問したうち「満足」あるいは「やや満足」と、半分以上の方が概ね市政に対し、「概ね良い」という返事をしているということだ。確かに分野によって山あり谷ありがあるが、このような傾向は、今までのアンケート結果に比べてほぼ似たような結果なのか、例えば教育や子育てといった分野に非常に関心が高い形で特徴が見えたのかどうかをまず知りたい。そのお話を伺った後にまたいろいろと教えていただきたい。

(事務局)：過去のアンケートとの比較については、実際今回のアンケートの取り方を、初めてWebを中心とした手法に切り替えたところで、用紙を返送するより回答がし易いという部分に大きな違いがあると思われる。また、実際に回答いただいた年齢層も若干の変化がある。ただ、同じ基準でアンケートを取っていないということで、完全な比較ができず今回お示しはしていない。もっと正確に分析した結果をお示しさせていただこうと思う。ただ、過去の回答と大きく違うところはあまりなかったように記憶している。

<委員>：アンケートの取り方を年々少し変えるのは当然のことと思う。何が言いたいかというと、「概ね良い」と回答している部分が非常に多い特徴であると。これは非常に良いことで、つまり強みは更に強くしなければならないし、弱みがあるとすればそれはどのようなものかを見える化して考えるのは必要と思う。また皆さんしっかり見えてアンケートに答えていらっしゃるということで、このアンケートは非常に意味があると思って、話をさせていただいた。

<会長>：ありがとうございます。事務局側からご説明いただいた通りだが、もう1点補足すると基本計画の初年度ということで、1年目、2年目、3年目というふうに取り組みが続いていくと、経年変化で満足度が向上しているのか参画度が向上しているのかということが評価の視点ですごく重要になってくると思う。ただ今回が第3次計画にあって初年度ということで、そういう

経年変化を見るにはまだ少し早いところがあると思う。先ほどの意見は非常に重要だと思うので、やはり参考資料としてご用意いただきたいと思うし、今回の評価にあたっては、どちらかというところと経年変化でみてどうかという視点よりは平均点中間点から見たときに、仮に満足度が低い施策については、その要因分析がきちんと担当課で出来ているかどうかというようなところを見ていただくのがいいと思う。

<会長>：他にいかがでしょうか。

<委員>：今回は実際このアンケート調査が1回目のアンケート調査になるということによろしいか。1回目の調査で今回は初めてオンライン形式で、今まではどちらかといえば用紙を郵送するという形だったということ間違いはないか。今後はこういったオンライン形式で行うと使えない方もいるので、回答が偏った年齢層になり、それにより結果が違ってくるのではと気になるがどうか。

(事務局)：答え方の違いによりweb回答だと年齢層にバラつきが出るのではないかという話だと思う。その点に関しては、従来の紙ベースの回答も対応し柔軟に取りまとめたところだ。ただ先ほど会長の補足にもあった通り、計画期間との兼ね合いで、今回の第3次基本計画のアンケートとしては1回目、前回の第2次計画最終年のアンケートにおいてもweb方式をとらせていただいた。

<委員>：わかりました。これからもweb方式でアンケートをしていくという認識でよろしいか。

(事務局)：はい。

<会長>：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

<委員>：今アンケートの話が出ていますが、先ほど会長からもやはりその補完性の原理の中で、住民の参画を促していくことが非常に大事だということに私も同じ考えで、そのように努めていきたいと思っている。満足度・参画度について、例えば、資料4「R3年度まちづくりアンケート調査結果報告書」の9ページ以後にそれぞれ前年までの推移を示していただいたが、R3年度に斜線になっているところはデータがない。この理由を教えてください。

(事務局)：令和2年度と令和3年度のところでちょうど計画期間の切り替えがあり、施策の見直しをかけた。そのため、同じ項目で令和3年度において施策が無い箇所は斜線になっている。また、令和2年度以前に斜線がある箇所は、今回の計画から新たに設けたという意味。また、令和2年度以前についても、同様の項目で満足度・参画度を示しているのので、参考にいただきたい。

<会長>：他にいかがでしょうか。

<会長>： 資料3「外部評価シート」の見方についてはこの次の議事で説明があるが、次回は外部評価の実施ということになる。まず外部評価とは何かということについて再度確認をさせていただく。資料2「評価の実施手法について」の1ページをご覧ください。私達がゼロから評価をするというわけでは必ずしもなく、まずは行政の各部局での内部における評価が先行して行われているので、その行政の各担当部局の内部における評価が、果たして適切な評価がなされているかどうかということ、私達の観点からチェックするというのがここでいう外部評価ということになる。内部評価の結果がこれから説明いただく資料3に取りまとめであるので、それを見ていただき、果たしてその整合性のとれた評価ができていないかどうか、まだ目標が達成できていないという場合に、それに対しての要因分析がきちんと適切にできているかどうか、その要因分析に基づいて、次回、次年度に向けてメリハリのきいた事業の見直しや実施計画がきちんと組み立てられているかどうか、そうした行政部局内でのチェックやそれに基づいた見直しが適正になされているかどうかという点について、皆様に外部のものから見方から見ていただく、点検していただくということを伊賀市では外部評価というふうに呼んでいる。ただこの外部評価の手法については、まだ正直言って私も暗中模索の最中で、この以前の審議会でもそうだったが、委員の皆様からこうしたらどうだ、ああしたらどうだというようなご意見をいただきながら評価手法について見直しをかけてきたという経緯がある。

今回は皆様に提案のあったようなやり方でやっていただき、評価の手法についてもっとこうしたらどうだということについては、ぜひ評価実施した後、また意見交換をさせていただき、次年度に向けて評価の手法について改善していければというふうに考えているので、よろしく願いたい。

評価のスケジュールについても説明があった。資料2の3「評価スケジュール」に示してある。かなり忙しいスケジュールで委員の皆様には評価をしていただくので、次回の審議会までにいろいろと宿題をしてきていただくというふうになっている。これは次年度の予算編成にこの評価の結果を反映させるというような点がこの評価においては極めて重要だというふうに考えている。そのためにこの忙しいスケジュールで早め早めというように形で評価を実施するというようにしている。

これも前の審議会でも委員の皆様からいろいろとご意見をいただきながら、スケジュールを早めていった結果なので、早い段階での評価を皆様にご協力いただきながら実施をし、それをぜひ行政においては次年度の予算編成に、きちんと反映していただければ、そういう形で評価結果を使って

いただきたいと思います。皆様にもその点ご理解いただいてご協力いただければと思う。よろしくお願ひしたい。

では、外部評価の実施について、事務局から説明をいただいた後にまた質疑の時間をとらせていただきたいと思います。

(3) 外部評価の実施について

(事務局) — 説明 —

<会長>： 資料3「外部評価シート」の「分野1 健康・福祉」で、「B 事務事業の効果検証」の中の「事業の進捗」のところで欄がピンク色や青色の色付けがしてあるが、これはどういう趣旨で色付けをされているのか。

(事務局)： 「事業の進捗」部分のピンク色と青色だが、ピンク色の部分については、数値的な結果は低いが、担当課の評価は高くなっている。青色の部分については、数値結果は高いが、担当課の評価が低いという所で、目安として色付けした。参考にさせていただければと思う。

<会長>： 大雑把に言うと総合政策課から見たときに、各自基本事業の担当課が評価している評価について、はたして適正な評価がされているかどうかという点に、やや疑問がある点に色付けをしてあるということか。

(事務局)： はい。例えば具体的に言うと、「分野1 健康・福祉」の2番目の施策「医療」の基本事業「地域医療」の評価について、評価対象の数字が小さいため、割合にして落とし込むと評価自体が低くなるという、つまり5分の4達成できているが、進展度が「×」という評価になり、感覚的な事業の進捗評価と実際の数字との差が出ている所もあるので、その辺お含みおきいただきながら評価を見ていただきたい。

<会長>： ありがとうございます。今回の外部評価は基本的にはこの資料3「外部評価シート」を委員の皆様にご覧いただければ評価ができる、その前提で資料3は作っていただいているはず。ただ資料3を見ていただき、余り詳細な記述がこれ自体されているわけではないので、もう少し細かなところについて確認したい場合は、この参考資料として配付されている施策評価シート(案)をご確認いただく。それで、この資料3と参考資料を確認いただいてもなお疑問が解消しないという場合には、7月7日までに事前に事務局に質問表を出していただき、担当課から個別に回答していただく。そういう形で疑問を解消してもらうための参考資料あるいは事前質問について、先ほどご案内をさせていただいた。この資料3をご覧いただければ基本的には評価が完結的にできるはずという前提で、資料3は作っているもので、皆さんにもこの資料3はそのような物の見方でまず見ていただければいいのかなと思う。

ピンクや青の色付けがしてある所が今回の評価の肝ではないかとのことで、予めチェックをしていただいたが、ここを中心として、その他の色が付いてない所についても、一通りご覧いただくといいと思う。

また、資料2「評価の実施手法について」をちょっと横目に眺めながら、資料3「外部評価シート」の確認をさせていただくと、資料2の2ページの4「外部評価の実施」で外部評価は次の3つの視点で評価を行ってくださいとある。「A成果指標」と「B事務事業の効果検証」が、各個別の基本事業についての評価ということ。

資料の3をご覧いただくと、例えば「施策1地域共生社会づくり」の基本事業「共助のしくみづくり」については、進展度に「△」がついている。KPIでいうと、目標値60に対してR3年度の実績値が47で、計画策定時よりも下がっているので進展度は「△」となる。ここをまずご確認いただきたいというのが一点。重要なのはおそらくその右側の課題の所で、十分な事業の進展がされてないということが数字上は出てくる。ただ、その課題分析としてそこにやむを得ない理由があるかどうか。十分な課題や要因分析ができていっているかどうか、ここにはコロナの関係が書いてあり、R3年度もコロナ禍での施策実施となった。そのコロナ禍の要因によって、このような進展度に留まっていることがやむを得ないかどうか、その点について評価していただくのが重要ではないかと思う。きちんと要因分析ができていて、確かにそれはやむを得ないと委員の皆様にも納得いただけるようなことが課題の所に書いてある。それを踏まえて事業の進捗について評価ができていっているということであれば、それは進捗度に関わりなく適正な評価となるし、また事業進展しておらず、要因分析も的確になされていないとすればそこは改めて見直しをしていただく必要があるということで、その的確な課題・要因分析ができていない箇所について委員の皆様の観点から見出していただき、それをコメントとして書き出していただくといいと思う。そして「A成果指標」とそれから「B事務事業の効果検証」の視線の行き来をしていただいて、進展度の評価に対し課題・要因分析が的確になされていない箇所がないかどうかとまずご確認いただくのが一つ重要なかなと思う。

それから「Cまちづくりアンケート調査結果」の所は各基本事業ごとではなく、施策ごとについて満足度と参画度を指標にとっていただいているので、ここを評価の観点としていただくのが「C」の部分である。基本事業がそれぞれ別個に独立して存在するわけではなくて、これら基本事業を実施していくことにより、施策が掲げる目標が達成できる。その観点から基本事業を選出しているはずなので、基本事業をしっかりと実施していった結果として、満足度それから参画度を向上させるというような制度設計

がなされているかどうか、仮に満足度や参画度が低いとした場合には、その参画度や満足度を上げるための要因分析が各基本事業の分析の中でなされているかどうか、そういう形で、「Cまちづくりアンケート調査結果」とそれから「B事務事業の効果検証」との視線の行き来をしていただくということが、この「C」の使い方だと思う。

そのような形で、まずは「A成果指標」と「B事務事業の効果検証」の視線の行き来でもって各基本事業についての内部評価が適正かどうかということについてのチェックをしていただく。更には、「Cまちづくりアンケート調査結果」と「B事務事業の効果検証」との視線の行き来をしていただく中で施策全体の評価やあるいは要因分析がきちんとできているかどうかということについて皆さんにチェックしていただく。そのあたりが今回の外部評価の肝というところになってくると考えている。

いかがでしょうか。またご意見やご質問等いただければと思う。

<委員>： 色々なところで、色々な評価をしている経験から言うと、会長の今の意見はとても的を得た話でその通りだと思うということを申し上げたい。私たちもKPIは要するに数値目標を制度的にやっていくためには必要だが、どういうジレンマがあるかという野心的な数値を挙げれば挙げるほど自分の首を絞める形になってしまう。かといって安易なやり方でやっていくのは、今の時代には合わない。そういったものが絶対やっていく中で見えてくると思う。我々が第三者的な形で評価するというのは、やる気を駄目にするというのではなく、定量的にできるKPIとちょっと出来ないかもしれないが大変重要な根幹になるようなものに対してどうするかということだと思う。すごく私は良い形だなと思うのは、KPIで実績値を出し、進展度で「○」、「×」、「△」と評価し、そこでまた我々の外部審査評価者の意見を踏まえて、二重三重のいくつかの過程を踏んだ評価というのは伊賀方式として良いものだと思う。

ただ、ザッと今見るだけだが資料3「外部評価シート」の施策「医療」の基本事業「地域医療」を見てみると、もちろん母数が5しかないので実績4で、5分の4という形だと、80%で進展度が「△」ではないかと思う部分が「×」になっているという所をどう考えるかということはあると思う。例えば母数が何百何千というものに対する実績何十%というものの重みと、母数が元々少ないものに対する実績一つの重みを、我々がどのように考えるかということも課題である。

あと、一つ気になるのは伊賀市まちづくりアンケートである。このアンケートを見てみると、勿論ありがたいのは行政が主導でやっている施策に関して、きちんとした第三者的な評価をしているということ。それは分かったとして、施策の所に市民の意向として盛り込むために使うアンケート

としてやるならば、これからアンケートの取り方をもっと考えないと、何というか、意図は良かったけれど、結果的にバラバラに進んでいくような感じを自ら示した形になってしまうのではと思う。それも本当の伊賀市らしさ、伊賀市の皆さんの本当の幸せのために必要なひとつのプロセスだというふうに思うのか、そこをどのように考えるかが今後非常に良い取り組みであるがために考えなくてはいけない部分だと思う。時間的に見ると、それを次回の第2回目の会議でほとんど決めてしまうのか、そうであれば相当忙しいのかなという感じもある。色々なことを考えて一番重要な大事な目標は何々、第2の目標は何々、第3の目標は何々と、そこでそれぞれのステージでどこまで行くのかというのをある程度示していただければ、我々もそれに合わせてやりやすいのではないかという感想も含めて話をさせていただいた。

<会長>： ありがとうございます。また外部評価の手法については皆さんのご意見も踏まえながら検討していけるといいなと思う。実は昨年度の評価は今回と同じように全ての施策を一覧して評価するというやり方を初めてとった。それ以前まではいくつかの施策あるいは事業をピックアップするような形で重点評価をするということをやってきた。委員がおっしゃってくださった考えだとそういうメリハリのついた評価、優先順位をつけた評価ということも考えられるのではないかというご意見だと伺ったが、すごく重要なご意見だと思う。毎年毎年施策全てということでもなくてもいいのかもしれないので、今後、意見交換を進めたいと思う。

1点目に言っていただいたこともすごく重要だなと思っていて、そもそも指標がどれくらい実現しているかという点で評価をするが、その指標自体が適切に取れているかどうかという点も、実は重要で、従来の外部評価だとその指標自体が不適切ではないかというご意見にも伺ってきた。今回も委員が先ほどピックアップしていただいた点なども含めて、そもそもこの指標ってどうだろうかというところから評価ご意見をいただければと思う。あわせてよろしく願いたい。

<委員>： 厳しいサイクルを回していくと言いながら私もそうだが、評価をすごく気にする。野心的な目標値を立てたいが、明らかに達成度が低くなるということが見込まれた時に、じゃあどうするのか、そこでものすごく悩んでいて、ちょっと変な話だが評価が高ければ良いけれど、かといってやらなきゃならないような部分のメリハリとか、その部分もなかなかKPIが高ければ高い程厳しいのが分かっているからやらなくなる。そういうことの良し悪しという部分も見えてくるので、伊賀方式を是非とも、頑張る人が報われるようなそういう手法をどう作るのかというところに繋がるような評価になればいいなと、ちょっと理想論になるが申し上げた。よろしく

お願いしたい。

<会長>： ありがとうございます。従来のやり方だとその指標に対して、サブ指標を作ってその指標ではきちんと表れないけれど、その頑張っている人が報われるようなサブ指標を何か考えられないかというところも取り入れたりしてきたので、また是非委員から元気づけていただくようなご意見いただければと思う。よろしくお願いしたい。

他にいかがでしょうか。

<委員>： すみません。DXプロモーションアドバイザーを昨年度勤めていた関係で、今回委員をさせていただいている。また、大学で少し都市計画やマーケティングも教えている。2つほど質問がある。先ほど委員がおっしゃったKPIのところも正に関係あるかと思う。

私は、マーケティングで農業のこともやっており、例えば資料3「外部評価シート」の「分野3産業・交流」の基本事業「農畜産物の生産振興」で「伊賀米の1等米比率」が指標としてある。実際、ご実家が農家とかそういう方はおそらくご存知だと思うが、去年はお米が非常に安くなり、辛い状況で未納も相次いでいるというのが事実なところで、ただやはり1等米比率にしたいというところには、KPIを設定するそれなりの理由というのが各部局であると思う。そういったKPIをこのような理由で設定しているという資料があれば、評価をするにあたって嬉しいなというのが1点。これは要望である。

続いて2点目は、例えば事務事業の効果検証で、参考資料の施策評価シート(案)28 ページ、29 ページの「【CHECK①】KPI (成果指標)」で「伊賀米の1等米比率」があって、「【CHECK②】効果検証」のところで、鳥獣害対策について記入があるが、そのKPIに対して効果検証がいまいち結びつかないなと思うところもあって、このようなところもコメントするという形でいいか。そういった理解でよろしいか。

(事務局)： ありがとうございます。まず、1点目のKPIの詳細な説明をというご意見について、今ご覧いただいている参考資料の施策評価シート(案)の「【CHECK①】KPI (成果指標)」欄の上段には成果指標を、下段にはその成果指標の詳しい説明をさせていただいた。ただ、先ほどの「1等米比率」については説明があまり詳しくなく、ちょっと参考にならない部分があるというところで、個別にご指摘いただいたところについては内容を深めるように、この施策評価シート(案)の修正を考えたい。それ以外に説明が詳しく書いてある部分については、参考にしていただければと思うので、お願いしたい。

あと2点目の、効果検証の課題の書きぶりについて、施策評価シート(案)「【DO】R3年度の事務事業」のところに記載がある事業が、対象事業とし

である。そこが、その施策によって広く事業がぶら下がっているところがあり、その中での課題ということで書き足りない部分というのが往々にしてある。ご指摘の通りでその部分についても個別にご意見いただければ対応を考えたいと思うので、その方向でお願いしたい。

<委員>： 分かりました。あと1つよろしいか。この全 38 施策を取り組む中で、特にその重点的に取り組む施策について評価ができるとよりいいと思う。もし、考えなどがあつたらお聞かせいただきたい。

(事務局)： ありがとうございます。今ご準備させていただいている資料には、重点施策を記載できていないので、分かるように補足させてもらう。一度検討させていただく。

<会長>： ありがとうございます。補足資料という形でお願いしたい。ただ本来でいうとやはり施策評価シート(案)の中にそれが明文化されないといけないはずのもので、KPI を実現するために何に重点的に取り組んでいくのか、それに対して、どのように評価するのかというところがやはりこのシート 1 枚からきちんと読み取れるのが本来の評価だと思う。今回はその参考資料という形でご対応いただき、次回以降は、成果指標の説明のところもそうだったが、この施策評価シート 1 枚からきちんと読み取れるような作文を各部局にお願いをしていただければなと思う。よろしくお願いしたい。

その評価シート自体も今年度から新しい様式になって、どのように書いていただくと良いかということなどについても委員の皆様から検証していただいてご意見いただくと、それを次年度以降に反映させられるかなというふうに思う。その点もあわせてぜひ資料3「外部評価シート」の一番最後に、総括のコメント欄もある。この総括のところなども使っていただいて評価の仕方そのものに対しての色々コメントいただけるといいのかなと思う。よろしくお願いしたい。

今回、かなりの当日配付資料にも関わらず色々駆け足で説明があり、またたくさん宿題を持ち帰っていただき、大変申し訳ないが、まずはこの資料3「外部評価シート」とのにらめっこをしていただければと思う。足りない部分についてはまた修正していきたい。個別に事務局へご質問なり、ご連絡なりいただければと思う。よろしくお願いしたい。短い期間だが、まだ次回7月20日までの間には期間もあるので、その他、何か出てきたら、事務局へご連絡をいただきますようよろしくお願いしたい。

ではその他何かございますか。

<委員>： すみません。この資料5「第2回審議会に向けての事前質問」のところで、右上にQRコードがあるということは、これはGoogleフォームに入力できるということか。

(事務局)： はい。そうです。

<委員>： 分かりました。そうすると例えば資料3「外部評価シート」の一番最後の評価コメントも、これも Google フォームに入力できるようになるのか。

(事務局)： そうですね。その方向で準備させていただきたい。事前質問についてはもうご活用いただけたらと思う。

<委員>： 我々が手書きで書いて、事務局がそれを PC へ入力するのではなく、DX の観点から、我々が直接入力できるように是非お願いしたい。

<会長>： ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。ではその他の説明も含めて、あとは進行を事務局にお返しするのでよろしく願います。

(事務局)： ありがとうございます。先ほどご質問もあった資料5「第2回審議会に向けての事前質問」について、右上の QR コードを読み取ってもらうと、施策を選択して、質問を記入いただく欄を作っているため、それで随時送っていただく形でも良いし紙媒体でも良いし、メールでの提出も可能なので一番やりやすい方法を選択しご対応いただきたい。

事項書7「その他」については、次回会議の日程で、7月20日(水)を予定いたしたい。この後、会議案内を追ってさせていただく。また、次回会議までに資料修正の報告等もさせていただきたいので、委員の皆さんのメールアドレス確認についてご協力をお願いしたい。

(事務局)： 本日は長時間にわたり熱心にご議論いただきましてありがとうございます。それでは審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。